

国際医療通訳支援システムの研究開発
－Web セミナーの有効性の検討－

長嶺めぐみ¹⁾、瀧澤清美²⁾

¹⁾Megumi Nagamine, ²⁾Kiyomi Takizawa

¹⁾ 群馬医療福祉大学看護学部 ²⁾ 藤田保健衛生大学大学院 ³⁾ NPO 法人 NADI

¹⁾ Graduate School of Gunma University of Health and Welfare

²⁾ NPO National Association for Development of Interpreting

キーワード： 遠隔医療、医療通訳養成、外国人、国際医療、ICT

Keyword: Telemedicine, Medical interpreter training, foreigners, international medical care, ICT

<事象／報告要点>

今日、国の施策により訪日する外国人が急増し、地方においても外国人患者が増えている。今後増え続ける外国人患者に対応できる医療通訳者の養成は急務であり、臨床側からも医療通訳者の医療知識を求める声は少なくない。より多くの人々が医療通訳養成講座を受講できる方法として Web セミナーがある。しかし、この方法は講師と受講生が一堂に会していないため、受講生の理解状況をその場で把握できないというデメリットがある。そこで今回 Web セミナーの前後に講義に関する小テストを行い、前後の成績を比較することで受講生の理解度および Web セミナーの効果を比較する試みを行ったのでここに報告する。

<Web セミナー概要>

1. 実施日時：2016年11月19日（土）～12月10日（土） 21:00～22:00
2. 参加人数：80名
3. 参加国及び都道府県：日本、アメリカ 他3カ国
4. 受講者翻訳言語：英語、中国語、スペイン語 他8言語
5. 使用システム：ZOOM Cloud Meetings
6. 講義内容

第1回 バーチャルホスピタル

第2回 基礎医学 循環器

第3回 バーチャル診療

第4回 基礎医学 整形外科

<方法>

全4回の Web セミナーの内、第2回と第4回の講義の前に講義で扱う内容の小テストを実施した。その後講義を受けてもらい、講義終了後同一内容の小テストを実施し、理解度の確認を行った。小テストはそれぞれ2部構成となっており、第一問は解剖学の問題、第2問は生理学の問題で構成されている。

<結果>

全受講生のうち、講義の前後で小テストを受け、結果を提出した者は循環器15名、整形外科8名であ

った。この参加者の講義前後でのテスト結果を比較した所、正解上昇率は循環器では第 1 問で平均 2.9 点、最小 0 点、最大 14 点、第 2 問では平均 2.4 点、最小 0 点、最大 6 点であった。整形外科では第 1 問で平均 0.63 点、最小-2 点、最大 3 点、第 2 問では平均 1 点、最小 0 点、最大 2 点であった。

<考察>

講義の前後で正解率は上昇しており、Web セミナーの講義は有効であると言える。